



今日から明日へ——

## 不存在のデメリット (無ければ絶対に困る存在)への挑戦

創業50年目に当たる1997年は大企業の経営破綻が相次いで表面化し、日本経済は崩壊寸前とまで言われました。歴史に残る変革期、経営の舵取りが難しい時代です。あらためて「真観政要」の「帝王の業、草創と守成といずれか難しき」が頭に浮かびます。時間は流れ続け環境は刻々と変化するなか企業が生き残り発展する策を講じていく、現状維持は衰退につながることを認識し過去の栄光に溺れることなく新しい未来を創造していく、そこに守成の難しさがあると思います。

51年目を歩き出している我々は半世紀にも及ぶ過去を知りその過去があるため現在があることに感謝し、未来を語り未来を創造する手を打っていかねばならないのです。

ある経営論文に図-1のようなおもしろい図がありました。これは産業が新しい産業にシフトしても基盤的技術はオーバーラップする部分が多く重要であることを示しています。事業の定義でも表現していますようにOGICの技術はこの基盤的技術に属します。そして私は特に三角形abcに

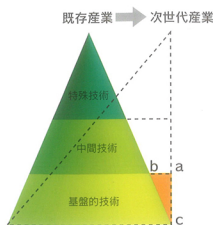


図-1 (出典:岡 潤博「フルセット型産業構造を超えて」1993年)

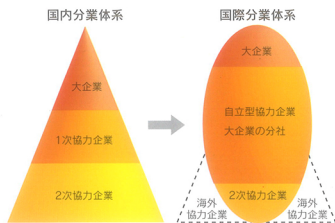


図-2 (出典:1995年九州経済白書「変わる分業体系のピラミッド」)

着目しています。この三角形を「差別化のトライアングル」と私は勝手に名付けているのですが、OGICの未来はこの領域をいかに構築するかということであると思います。それは例えば新素材に対応できる表面処理であったりするのですが、そのように「技術を進化させる」、ここに未来を感じています。また別の論文には図-2のような分業体系の変化、ピラミッド分業体系が崩れ大企業は分社化し海外企業も参入した複雑な分業体系に移行していくことが示されています。「差別化のトライアングル」を構築することが技術開発力を持った「自立型協力企業」として大企業に専門分野で頼りにされるパートナー的存在になることだと思います。「差別化のトライアングル」は実際は2次元から3次元さらに時間軸、地域軸などが絡まった多次元の複雑形であると思いますが、ここに我々の存在価値を見つけていきたいと思ひますし、それが「不在のデメリット」につながる道と考えています。

本誌の社員座談会からは「各人が責任を持ち、自分の得意なことを生かし、相互に助け合いながらみんながまとまっ

ていける会社」という結論が浮かび上がってきます。これはまさにラグビー精神の「one for all, all for one」であり、NECの関本会長が言われるホロニックマネージメント「個人が主体的に活動し、全体として調和する」、さらには松下電器の七精神につながるような結論であり非常に心強く思うところです。

「自責の風を吹かせ、自分たちが歴史を創る」という気概を持って社員一丸となり堅実に歩を進めていきたいと思ひます。

今までの50年間にOGICに関わっていただいたすべての方々にあらためて深く感謝申し上げますとともに今後のOGICに益々のご支援をどうぞよろしくお願い致します。

1998年6月3日

金森秀一

*Sbuichi Kanamori*